



最新鋭自動メッキ処理施設

仁科工業株式会社（製造業）

企業理念・100億宣言に向けた経営者メッセージ



代表取締役
仁科 一彦

めっき処理加工技術で金属に新たな付加価値を創造します

仁科工業株式会社は、ものづくり日本の製造業を支える中小企業の一社として、金属表面処理を通じて常に品質改善を実践し、最新の技術を駆使し、お客様の要求に応える技術提案を実現させます。**国内最大級の超大型無電解ニッケルめっき設備**を開発導入し、全長4m級、最大重量20 t級の工業製品まで対応しています。一般産業向けから宇宙、原子力、防衛関連まで、**数ミリ単位の超小物部品から大型工業製品**まで、幅広い産業分野の多種多様の要求に即した高度な表面処理加工技術を提供してゆきます。今後は、**完全自動化ライン**を考案・開発・導入することで効率性・生産性を向上させ、更なる高みを追求し続けます。

売上高100億円実現の目標と課題

実現目標

2038年度の100億円達成のために、効率性・生産性という弱みの改善を計画、競争力を強化します。
第1ステージ（2024年度から2028年度）第2ステージ（2029年度から2033年度）第3ステージにそれぞれの目標を定めた事業計画を実施します。

課題

- ・5拠点、26ラインによる製造量の限界による失注
- ・新工場建設、新ラインの設備投資の必要性
- ・品質保持のための手作業による、労働生産性・効率性の改善
- ・PTFE無電解ニッケルめっきの市場拡大への対応
- ・30t級の超大型製品の設備（航空・宇宙分野など）
- ・表面処理の新分野「表面改質」の研究開発

売上高100億円実現に向けた具体的措置

目指す成長手段

- ・設備投資による生産体制の増強
- ・増産のための工場の新設
- ・生産工程の手作業工程の自動化への技術開発
- ・市場規模が拡大している無電解ニッケルめっきの増産計画
- ・得意とする、日本最大級の大型めっきのラインの増強
- ・大型めっきと小物めっきの両輪による経営の安定化
- ・賃上げの実現による、社員定着率の向上

実施体制

- ・新工場、新拠点の建造、新ラインの増設
- ・働きやすい職場環境の整備により、経営資源の人材の定着
- ・手作業工程を自動化することで生産効率の向上
- ・既存取引先の増収と、新規取引先の開拓
- ・装置産業としての設備投資
- ・先端技術の開発・研究
- ・人材の有効活用

※本宣言は企業自身がその責任において売上高100億円を目指して、自社の取組を進める旨を宣言するものです

○本社所在地：埼玉県さいたま市中央区下落合1003

○事業概要：一般産業向け機械部品、宇宙、原子力、防衛関連等の高度なめっきの提供

○常時使用する従業員数：108人（2024年3月期）

○現在の売上高：18億円（2025年3月期）

○法人番号：9030001006464

○Web：<http://nishina-inc.com/>

売上高100億円実現の目標

当社は埼玉県内に5つの拠点、26ラインの無電解ニッケルめっきをはじめ、複合無電解ニッケルめっき、黒色無電解ニッケルめっき、電解ニッケルめっき、硬質クロームめっき、亜鉛めっき等のラインを稼働している総合めっき業であります。特に、日本最大級の大型めっき浴槽があり、特殊大型めっきに関する知見、技術力には大きな信頼と実績を保持しており、安定した売り上げを計上しており、2024年度で18億の売上があります。

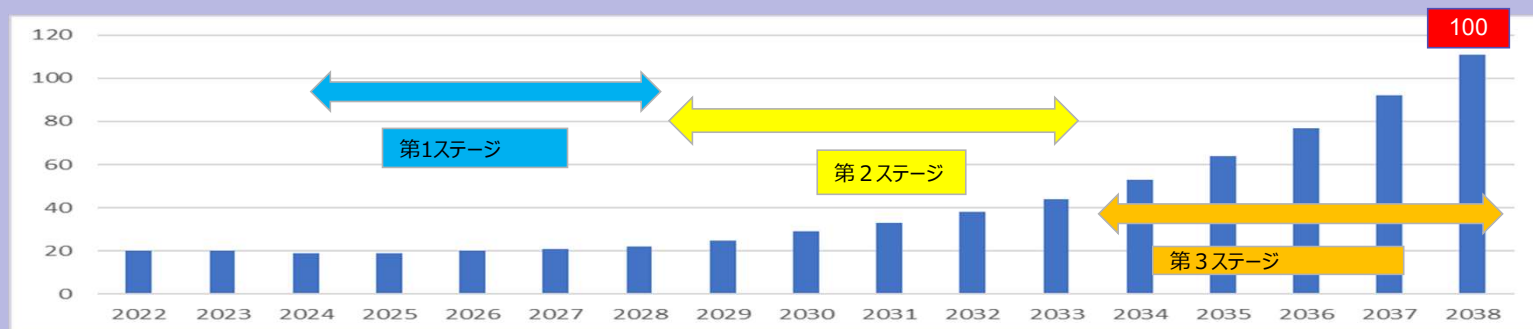
また当社は「さいたま市リーディングエッジ企業2025」に選出され、「九都県市のきらりと光る産業技術表彰」に選出表彰され、さいたま市代表企業として技術力・地域経済力を牽引する企業として認知されています。

めっき業は設備産業であり、経営方針として設備、工場などの「器」があってこそ、当社の技術が生かせ、めっきを通じてものづくり日本の製造業の「表面処理加工」に貢献できると考えています。

また、人的資源としての従業員の定着率を上げるべく売上向上に伴い、給与として社員に還元し、「自動化」による作業負担の軽減を図り、女性でも働きやすい職場環境を構築しています。

100億円企業を目指すために

- ①2038年度までに100億円企業に成長するために1期・2期・3期のステージに分けたアクションプランを構築
- ②手動・半自動ラインを可能な限り自動化ラインに開発、さらに拠点の増設、ラインの増設を計画し業績向上
- ③30トンの超大型めっき加工と、自動化による品質向上の小型めっきの両輪の戦略による競争力強化
- ④表面加工という既存の技術を活かしためっき加工以外の表面処理技術「表面改質」の新分野の研究開発への投資



○当社代表取締役 仁科一彦（経済学博士）
資格 大阪大学および明治学院大学名誉教授
略歴 東京大学卒業（1970年）
同大学院博士課程修了（1975年）
米国MITフルブライト客員研究員など